

# 道づくりだより

第10号

2008.12 島根県道づくり調整会議



山陰自動車道 建設状況

## CONTENTS

1. 山陰自動車道（斐川～出雲間）工事見学会を開催！！
2. 一般県道 矢尾今市線（大塚工区）の開通について
3. 一般県道 多伎インター線（多伎工区）の事業紹介
4. 三隅港の臨港道路について
5. 橋の高齢化対策
6. 現場発生材を使った鳥の巣箱作り ～ 徳前地区 農免農道整備事業 ～

## 山陰自動車道（斐川～出雲間） 工事見学会を開催！！

平成20年12月14日（日）、建設工が進む山陰自動車道（斐川～出雲間）の工事見学会が開催されました。あいにくの天気の中、地元住民108人が参加しました。



仏経山トンネル



斐伊川橋

工事もどんどん進んでいます！

山陰自動車道（斐川～出雲間）は NEXCO 西日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）により工事が進められており、11月末現在、土木工事は約8割の進捗で平成21年度内の完成を予定しています。

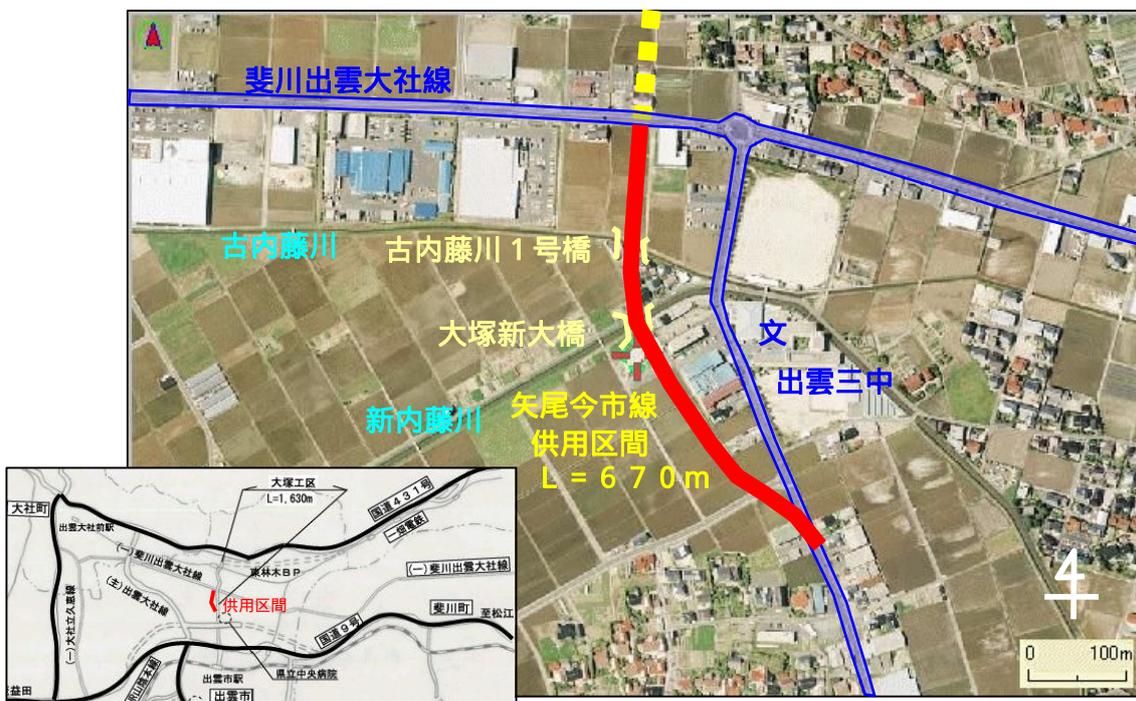


## 一般県道 矢尾今市線（大塚工区）の開通について

一般県道矢尾今市線は、出雲市矢尾町の国道431号から出雲市今市町の国道9号に至る延長約2.7kmの道路であり、そのうち国道9号バイパスの約1km北から現在事業を進めている国道431号東林木バイパスまでの間を『大塚工区』として整備を進めています。

東林木バイパス整備と併せ、大塚工区の整備により、出雲市中心部と旧平田市の連携強化と出雲地域の観光基盤、生活基盤の一体化が図られるとともに、緊急輸送道路としての機能向上および三次救急医療機関である県立中央病院へのアクセス向上による救急医療体制の強化が図られるものと期待されます。

このため、平成13年度から整備を行い、このたび12月4日に一般県道斐川出雲大社線から南へ670mまでの間が開通することとなりました。今後は引き続き、東林木バイパスへ向かって整備を進めていく予定です。



### 事業概要

事業名：地方道路交付金（改良）事業

新世紀道路ネットワーク整備事業（改良）

事業期間：平成13年度～

事業箇所：出雲市矢尾町～大塚町

施工延長：L = 1,630m（今回供用延長670m）

計画幅員：全幅員W = 15.0m（車道6.5m = 3.25 × 2、歩道（両側）3.5 × 2）

構造規格：3種2級

設計速度：60km/hr

主要構造物：古内藤川1号橋（L = 11.8m）、大塚新大橋（L = 38.5m）



## 完成状況



斐川出雲大社線から南を望む



大塚新大橋付近から南を望む

### お知らせ

供用開始に伴い、交差点が切り替わりました



## 一般県道 多伎インター線（多伎工区）の事業紹介

一般県道多伎インター線は、山陰道「多伎・朝山道路」の多伎インターチェンジ（仮称）と国道9号を直接結ぶ約1.1kmの道路です。

平成19年度から事業着手しており、平成20年度は用地買収、建物移転補償の他、事業用地内の立木伐採等を行っています。

現在、国土交通省で整備されている多伎・朝山道路の整備と併せ、この道路を整備することにより、国道9号で災害・事故が発生した場合の代替道路としての機能が確保されるとともに、多伎地方の産業振興や文化・観光の発展に寄与することが期待されます。



### 事業概要

事業名：地方道路交付金（改良）事業

新世紀道路ネットワーク整備事業（改良）

事業期間：平成19年度～

事業箇所：出雲市多伎町

施工延長：L = 1,094m

計画幅員：全幅員W = 10.0 ~ 15.0m（車道6.0m = 3.0 × 2、歩道2.5m（一部両側））

構造規格：3種3級

設計速度：50km/hr

主要構造物：後谷跨線橋（JR跨線橋、L = 13.0m）



# 三隅港の臨港道路について

臨港道路については、「道づくりだより 第7号」で紹介しましたが、今回は三隅港についてもう少し詳しくお話しします。

## 〔三隅港の概要〕

三隅港は、浜田港と益田港のほぼ中間に位置する港で、昭和57年に「重要港湾 三隅港」として指定されるまでは、旧三隅町が管理する松原港と湊浦港の二つに分かれていました。

湊浦港は、昭和初期には九州・朝鮮への枕木素材やその他の林産物（竹等）の積出港として大型帆船の出入りも盛んでしたが、戦後は陸上輸送が主流となり次第に衰退し、松原港とともに沿岸漁業の基地として細々と利用されていました。

一方、中国電力では昭和48年のオイルショック以降、それ以前の石油依存度の低減を図り、脱石油のための電源の多様化に取り組んでいましたが、その一環として、海外から直接輸入する石炭を燃料とする大型火力発電所を建設することとしました。

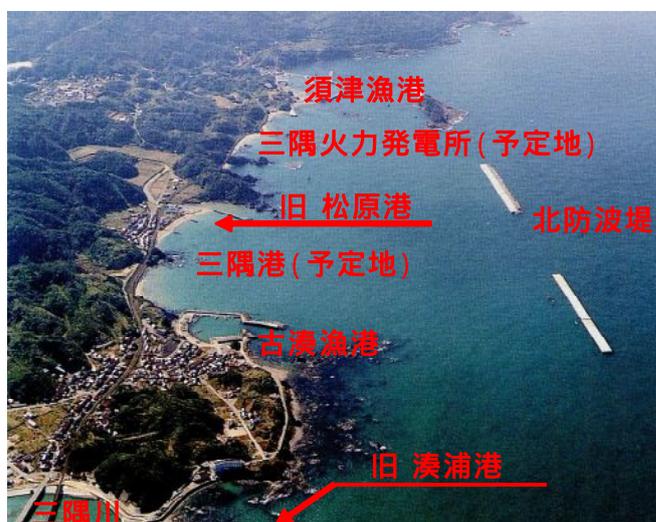
三隅港は、この石炭火力発電所の立地を受け、松原港と湊浦港を統合し、新たにエネルギー港湾として昭和57年11月に重要港湾に指定されました。

三隅港の港湾区域は直線距離でも東西約6kmに及びますが、港湾区域内には浜田市管理の古湊漁港と福浦漁港もあり、その広さが伺えると思います。

## （三隅港の整備状況）



昭和53年



平成元年



平成5年



平成15年

## （三隅港整備の沿革）

昭和52年度

昭和57年度

昭和61年度～平成8年度

昭和60年度～平成9年度

平成3年度～平成17年度

中国電力(株)が石炭火力発電所の設置を計画

重要港湾三隅港誕生

火力発電所建設(中国電力(株))

国直轄で、北防波堤、東防波堤整備

県が岸壁、臨港道路等整備

平成15年

## 〔臨港道路〕

三隅港の臨港道路は、港と国道9号を結ぶ全長1,925m、全幅10.5m(車道:幅員3.25m×2車線、歩道:幅員2.0m片側)の道路で、総事業費約23億円、平成3年度から平成17年度まで15年の歳月を経て建設しました。

現在は、石炭灰(フライアッシュ)やコンクリート二次製品などが、港からこの道路を通じて島根県東部や山口県、広島県、兵庫県などに運ばれていきます。

また、工業用品の運搬ばかりではなく、周辺集落への生活物資の運搬や地域住民の通勤や買い物など、生活道路として大いに利用されています。

区間にはトンネルが1本ありますが、このトンネルは松原トンネルといい、全長275m、全幅10.7m(車道:幅員3.25m×2車線、歩道:2.0m片側)で、総事業費約10億円、平成7年度から平成9年度にかけて、NATM(ナトム)工法により掘削しました。(NATM工法については、「道づくりだより 第8号 浦郷漁港 臨港道路トンネル工事について」をご覧ください。)

松原トンネルは、路面から最も高いところまで約6mですが、構造上、通行できる車両の高さは4.7mまでとなっています。



三隅港 臨港道路



松原トンネル

# 橋の高齢化対策

## 島根県が管理する橋

島根県が管理する国道・県道に架かる橋は、約2,600橋あります。このうち、建設後50年を経過する橋の占める割合は、現在約10%ですが、20年後には約45%となり、急速に高齢化した橋が増加することが想定されます。

一般的な橋の寿命は、50年から75年と言われていることから、これらの橋が一斉に寿命を迎え、架け替えが必要となると、大きな事業費が必要となり、大きな財政負担が生じることが予想されます。

## 橋梁長寿命化修繕計画

このような背景から、計画的な修繕・架替えを行うことで、橋の寿命を延ばすことや予算の平準化・コスト縮減を図ることが不可欠となっています。計画的に修繕・架替えを実施する計画、「島根県橋梁長寿命化計画」の策定に取り組んでいます。

### 【橋梁の長寿命化のイメージ】



人間に例えると、定期健診により体の状態を把握しておくことで、病気の早期発見や適切な治療が可能となるように、橋も定期点検で損傷を把握し、軽微な損傷のうちに修繕することで、健全な状態を維持し、長寿命化が図れます。早期治療や予防保全をしないと、人間では、病気が進行し大手術が必要となる場合があるように、橋で

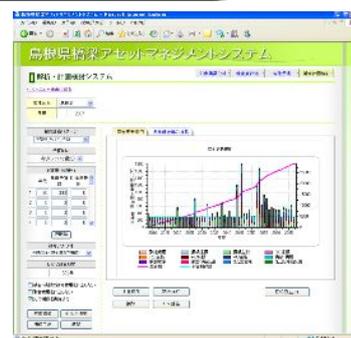
は、損傷が進行し大規模な補修や架替えが必要となります。

## 計画策定の状況

現在、橋の点検を各事務所の職員により進めており、点検が完了した橋から計画を策定しています。また、点検・計画策定の作業やデータ保存を効率的に行えるよう、「島根県橋梁アセットマネジメントシステム」を構築もすすめています。



「島根県橋梁アセットマネジメントシステム」



「シミュレーション画面」

高齢化が進む橋が安全に通行できるよう、定期点検、計画の策定及び計画に基づく修繕を行っていくこととしています。

島根県長寿命化修繕計画については、下記ホームページをご覧ください。

[http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/douroji/seibi\\_keikaku/tyoujumyouka/tyouju\\_keikaku.html](http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/douroji/seibi_keikaku/tyoujumyouka/tyouju_keikaku.html)



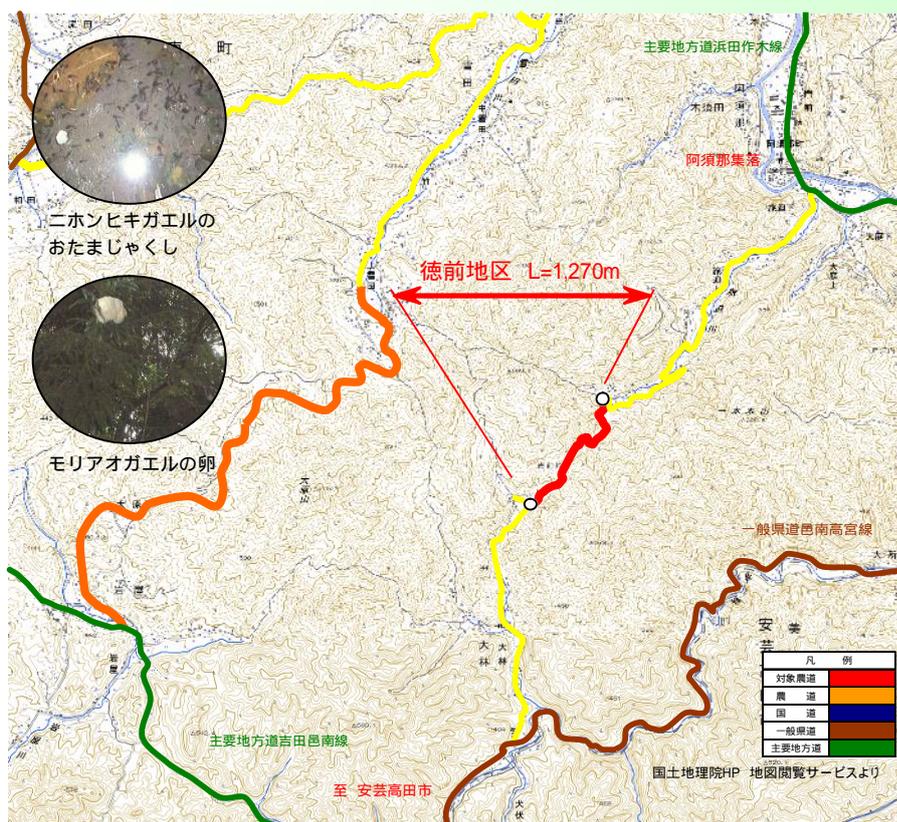
# 現場発生材を使った鳥の巣箱づくり

## ～ 徳前地区 農免農道整備事業 ～

平成 20 年 11 月 26、27 日、地元「阿須那小学校」及び「口羽小学校」の 5・6 年生児童を対象に、農業農村整備の役割と徳前地区農免農道の概要について理解を深めてもらうと共に、本地区の工事現場で発生した木材を活用した「鳥の巣箱づくり」を実施しました。

本地区に生息している絶滅危惧種や、それら生物の生態系を保全するための取り組みについて勉強するとともに、今回作成した「鳥の巣箱」を 6 年生児童の卒業記念として、農道周辺の立木へ設置する予定です。

### 徳前地区の概要



～・施工中の様子・～  
工事に支障となる立木を伐採した後の状況

### ～・～ 事業の概要 ～・～

施工位置： 邑智郡邑南町地内                      工 期： 平成 18 年度～平成 23 年度（予定）  
 総事業費： 355 百万円（予定）                  計画延長： 1,270m  
 幅 員： 全幅 5.0m、車道幅員 4.0m

## 鳥の巣箱づくりの様子

阿須那小学校の様子  
(11月27日)

口羽小学校の様子  
(11月26日)

【 農業農村整備の役割や、環境配慮への取組みについて説明 】



【 請負業者の説明により、鳥の巣箱をつくる児童の様子 】



今回の「現場発生材を使った鳥の巣箱づくり」は、本工事の請負者である「坂之上建設(株)」の地域貢献・イメージアップの一環として実施されたもので、この機会に、農業農村整備の役割と、農道工事の実施にあたって自然環境に配慮することへの必要性、そして取組みについて紹介を行いました。

今回製作した鳥の巣箱は、6年生児童の卒業記念として、農道周辺の立木に設置することとなっております。卒業後も現地へ立ち寄り巣箱の状況を興味深く観察してくれることと思います。今回の体験によって、児童の自然や地元ふるさとに対する愛着が、より一層深まることに繋がればと思います。